

緑化計画の考え方（参考資料）

<緑化ゾーン区分と目標とするみどり環境>

	公園全体のゾーニング	緑化ゾーン区分	目標とするみどり環境	想定する樹種の例
A	自然育みエリア	外周緑化ゾーン1	早期供用を目指す利用度の高いエリアの緩衝緑地。	市民植樹等で植栽された既存の樹木（ヤナギ類、シラカンバ、カラマツ、ハルニレ、カツラ、エゾヤマザクラなど）の保全を中心とする。
B	自然育みエリア	自然育み緑化ゾーン	多目的に利用できる芝生広場のほか、圍場や花畑など、公園利用者がみどりと関わり、育むことができる区域。修景や木陰づくり、防風植栽も行う。	芝生地や圍場の造成。植栽は、ヤナギ類、ドロノキ、シラカバ、ケヤマハンノキ、イヌエンジュ、イチイ、トドマツ、アカエゾマツ（高木）、ノリウツギ、エゾニワトコ、マユミ、コマユミ（中低木）を予定。
C	利便性の高いエリア （レクリエーションエリア）	外周緑化ゾーン2	山本川と既存並木の沿道景観を維持しながら、水辺一林一草地の空間を感じることでできるみどり。	既存樹木（ヤチダモ林、ヤナギ類、カラマツ植林）を保全。 草地には、エゾノコンギク、ヨツバヒヨドリ、アキノキリンソウ、コンロンソウ、ススキ、エゾクガイソウ、ヤナギランなど（草本類）
D	利便性の高いエリア （レクリエーションエリア）	利用と修景の緑化ゾーン	憩いや遊びを目的とした樹林や草地のほか、修景や木陰づくりなど機能性を発揮するみどり。	パークゴルフコースは芝生地。ヤナギ、ミズナラ、ハリギリ、ミズキ、アズキナシ、エゾヤマザクラ（高木）、ノリウツギ、ヤマグワ、マユミ、コマユミ、アキグミ（中低木）、その他、自生する草類による野生草地など。
E	自然の遷移・保全エリア	環境創造と自然の遷移誘導ゾーン	樹林、ブッシュ、草地、湿地的要素など、多様な環境を組み合わせ、自然再生を学び実践することを目的としたみどり。	市民や企業参加で、多様な植生環境を時間をかけて創造。
F	自然の遷移・保全エリア	外周緑化ゾーン3	既存の植生を利用しながら、現行埋立地との緩衝を図る。	現存する植物種による草地、中低木。

